

1
言語
言葉の力をつけよう（音読3年②） 〔和歌「小倉百人一首」〕
名前

★「小倉百人一首」は鎌倉時代に藤原定家が選んだものです。一二三五年ごろに成立したと言われ、それまでにうたわれた古典和歌のすぐれた和歌を、作者一人につき一首ずつ収めています。どれも和歌として優れているだけでなく、歴史的背景を探ると大きな意味をもつものばかりです。その選び方や、ならべられた順番にも意味があると言われています。和歌の上の番号は、並べられた順番です。解説のプリントを読んでイメージをふくらませ、味わって読んでみましょう。

やってみよう

※ひらがなでルビを付けています。
※歴史的仮名遣いの読み方はカタカナで書いています。

① 秋の田のかりほの庵イオ いほ とまの苫こもをあらみ わが衣手ころもでは露つゆにぬれつつ
天智天皇 てんじてんのう

《読んだ回数》

② 春すぎて夏来なつきにけらし白妙しろたへの 衣ころもほすてふ天ちヨウあまの香具山かぐやま
持統天皇 じとうてんのう

④① しのぶれど色いろに出いでにけりわが恋こいは 物ものや思おもふと人ひとの問とふまで
平たいらの 兼盛かねもり

④① 恋ちヨウウすてふわが名はまだき立ちにけり 人知れずこそ思おもひそめしか
壬生忠見 みぶのただみ

⑥① 大江山おほえやまいく野の道の遠ければ まだふみも見ず天あまの橋立こしきぶのたいし
小式部内侍 はしだて

⑥① いにしへの奈良の都よの八重やへざくら けふ九重きヨウウにほひぬるかな
伊勢大輔 いせのたいふ

